

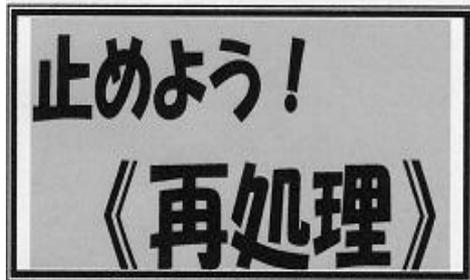
三陸の海を放射能から守る
岩手の会

ミニコミ通信 第23号

ホームページ

(岩手の環境 / RI廃棄物 / 再処理)
(まった再処理分庫)

URL: http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



2006(平成18)年

8月2日

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

郵便振替

02240-5-102650

海洋放出の日時判明



青森県議会で答弁

4月 1回	28日(金)
5月 6回	3日(水) 10日(水) 19日(金) 20日(土) 27日(土) 31日(水)
6月 6回	7日(水) 9日(金) 14日(水) 16日(金) 28日(水) 29日(木)

《6月再処理統計》日本原燃7月28日発表

再処理量 ウラン約14トン(累計約31トン)

放出放射能廃液・トリチウムのデータ

6月 19兆0000億ベクレル

5月 3兆9000億ベクレル

4月 1.7億ベクレル

累計 2.3兆ベクレル

青森県生活環境部 高坂部長が日時を答弁

核燃再処理工場からの海洋放出の日時が、青森県臨時議会での、高坂県生活環境部長の答弁によって明らかになりました。七月二〇日、再処理工場に反対する鹿内博議員(無所属)が質問しましたが、答弁では、放出日時は五月六回、六月六回で、水曜日と金曜日に集中しています。

原燃ホームページ 六月の放出量を発表 放出量は急増中

七月二十八日、日本原燃ホームページは六月の再処理工場の廃液などの統計を発表しました。今回もトリチウムのみの数値掲載ですが、一九兆ベクレルで四月の実に十一万倍です。四月からの合計は二三兆ベクレルで、年間管理目標値の0.12%になりました。アクティブ試験第一ステップで生じた廃液は全部放出されたわけではなく、七月も放出は続行されています。子どもの海水浴や海洋生物への影響が懸念されます。

肺に吸い込まれた
プルトニウムは
微量でも危険

京都大学原子炉実験所
小出裕章先生講演
(青森学習会)



小出裕章先生

原燃に説明会再要請 七月十日 宮古市

七月十日、熊坂義裕宮古市長、三上敏市議会議長、大井誠治宮古、畠山武男田老、伊藤隆一重茂の三漁協組合長は、日本原燃児島伊佐美社長宛、住民説明会開催を求めて再度要請書を送りました。

安全確保要請

七月二〇日 岩手県

岩手県は七月二〇日、菊池秀一県環境生活部長が日本原燃を訪問して、万全な安全確保、県民に分かりやすい広報の一点を要望しました。

七月十五日青森市での「再処理操業の中止を求めるシボシウム」に併せて開催された「プルトニウム被曝」学習会において講師の京都大学原子炉実験所小出裕章先生は、プルトニウム被曝のメカニズムを説明しました。

小出先生は、プルトニウムは人間が初めて作り出した放射性核種の一つであり、人類が遭遇した物質のうちで最悪の毒性を持つ。プルトニウム239は粒子線であるアルファ線を数万年も出し続け人間の組織内に入った場合排出されにくい。例えば、肺の細胞に付着した場合、短期半減期の核種とは違って、長く周囲の細胞に放射線を照射し続け、細胞核などに強烈なエネルギーを与える。当然、DNAの結合を切断したりする。紙も透過しないというところは、臓器膜も透過しにくいという点であり、体外からの探知は容易でない。肺などの組織内での「挙動」は不明であるが、少量でも、癌などを引き起こす危険は極めて高いなどと述べました。又、トリチウムの除去閉じこめ技術はお金さえかければ可能であるとも述べました。

六ヶ所村ラプソディー上映会

核燃の村「六ヶ所」を描いた鎌仲ひとみ監督の映画「六ヶ所村ラプソディー」の上映会は、六月十五日に陸前高田市で、三〇日には北上市で開催され、大勢の住民が鑑賞しました。鎌仲ひとみ監督も駆けつけてトークを行い、美しい三陸の海が汚されていくことについて多くの人が実情を知り考えてほしいと語りました。

高田上映会
約二〇〇人
漁業者 婦人会など
各地から広く参集



鎌仲ひとみ監督
ミニ講演
高田上映会

陸前高田市「ふれあいセンター」多目的ホール」で開催された上映会では、鎌仲ひとみ監督のミニ講演会も持たれ、映画制作の動機、思い、現地の様子などが話されました。「実行委員から報告記事が寄せられました。」

予想を超える観客数
チケットの半券による確認で入場者数一八六八人。スタッフと合わせて二〇〇人強と言ったところでしょう。漁業者、婦人会、一般市民、陸前高田、大船渡、三陸、越喜来、釜

ら、全部無くなっています。原燃の人達に海の幸をこちそうしたい

終わつた後の打ち上げに、鎌仲監督に是非ご馳走したいと持ち寄つた海の幸、山の幸。今が、旬のウニ、ほや、鰹、あいなめ、ほたて、岩カキ、かに、気仙沼の方々のイカの塩辛。どれをとつても、一般市場には出てこない漁業者自慢の海の幸。七月解禁になったアユ、イワナを炭火で焼いた焼き魚。地元の小学生と酒造会社の方々とで、田植えや稲刈りをしたお米を仕込んだお酒（陸前高田でしか売らない）、弊社の醤油、ぼん酢、漬物。全員のりのり！！ 鎌仲監督も大喜び。皆さんにも食べさせたかったです。人の考え方、感じ方は様々。それをお互いに認め合う包容力（決して妥協ではなく）が、対立を生まない運動になるような気がします。打ち上げて、主人が言い出したのは、この美味しい物で、パーティーをして、原燃の方々を招待しようか。でした。多分この美味しさを知らないのだと思いますよ。（み）

【北上上映会】
約二〇〇人
すばらしいワカメを台無しにしないで！
消費者から怒りの声

七月三〇日、北上市民交流祭事場で開催されました。三回の上映と鎌仲ひとみ監督のトークが行われました。



北上上映会

核の村の生活から本質に迫ろうと

思いました。鎌仲監督トーク
鎌仲監督は、「東京でふんだんに電気を使って生きている私が、六ヶ所の問題を理解するには、核とともに日々生きている現地の人々の姿を知らねばならないと思いました」と話はじめ、「推進派、反対派を問わず、すべての人々にへだてなく取材を要請し、『まっさらな』立場から本質に迫ろうとしました。しかし、残念ながら推進派の重要な人々からの協力が得られず、さまざまに努力したのですが、制作上の困難が伴いました」と語りました。さらに、下請けや派遣会社の作業員が被曝しやすい危険な現場を担っている六ヶ所の再処理工場の実態や、取材訪問したイギリスセラフィールド再処理工場の対岸の「マン島」の放射能汚染の実態なども話しました。さっそく増田知事さんに八ガキを出します

鑑賞の感想
鑑賞したばかりの、北上市在住の小原麗子さんに感想を聞きました。「放射能が海に流されているなんてとんでもないことです。帰ったらす

ぐ、『若手自慢の海産物、三陸ワカメを台無しにしないでください』と増田知事さんに八ガキを書きます。映画が描いた六ヶ所の自然や農民の作っている農作物がとも美しく感じられました。子ども達が食べていたトマト、丹精したチューリップ、見回ることに話しかけながら育てていた稲の緑の美しさ。それが人間の命を育てているのですよね。その向こうの再処理工場は、この自然に比べると、色彩の無い危い存在でした。正反対のコントラストに大きな違和感を覚え涙が出ました。」北上でも、上映会終了後、鎌仲監督を囲んで懇親会が持たれました。

学習会
（どなたでも参加出来ます）
「ここが知りたい六ヶ所再処理工場」
主催いわて生協・ピースキャンパス（核と被曝）
八月十七日（木）十時
場所・いわて生協ベルフ青山店
問い合わせは
いわて生協
組織・機関運営本部
019（687）13221